

○ 研究内容

【礼儀作法】

正座の仕方や左座右起の作法、礼の仕方等を学ぶ。



【竹刀や防具の工夫】

柔らかい簡易竹刀やヘルメット、ゴーグルを用いる。



【模範指導】

構えや竹刀の振り方、面打ちや胴打ちの模範から学ぶ。



【グループ対抗戦】

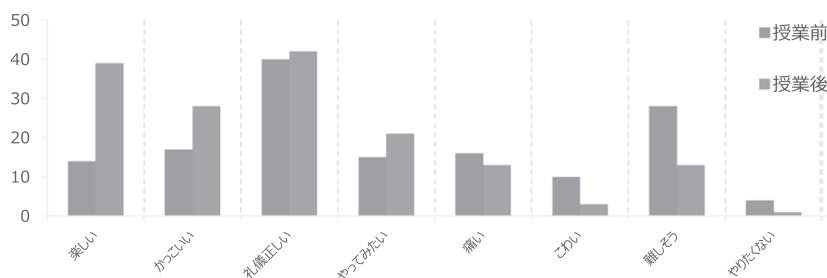
試合、審判、記録等の役割を果たして対抗戦を行う。



【アンケート結果】

授業前後のアンケート結果より考察した。

授業前後の剣道に対するイメージ



授業前後の生徒の剣道に対するイメージを比較すると、良いイメージの項目で人数が増加し、悪いイメージの項目で減少した。この傾向は昨年度より大きくなった。このことから、学習計画の改善によって生徒の意欲が高まり、肯定的なイメージをもつ生徒が増えたと考えられる。

【今後の取組】

攻守を交えた試合へと発展させたい。

来年度も実施したいと考えている。1年生では、今年度の取組を継続したい。また、来年度は2年生でも実施し、面・胴打ちについて「攻め」と「守り」を決めて対抗戦を行った今年度の取組から、小手打ちを含め攻守を交えた、より剣道の試合に近いルールでの対抗戦に発展させたいと考えている。

優れた指導力を有する外部指導者を活用することにより、剣道の指導経験がない教員の指導力を効果的に高めることができた事例

学校名 松山市立垣生中学校（愛媛県）2年
全校生徒数 377名（男子191名 女子186名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 089（972）1226
学校メールアドレス hab-jof@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 剣道に深い造詣をもつ外部指導者による指導を直接受けることにより、剣道の指導経験がない本校教員の指導力向上を図る。
- (2) 授業協力者としての外部指導者による指導を通して、武道のもつ特性に触れ、その伝統的な考え方や行動の仕方を理解し、剣道に対する興味・関心のさらなる向上を図る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

外部指導者による授業時間内（20時間）で効果的に授業を進め、かつ剣道の指導経験のない本校教員が剣道の指導法等について理解を深めるために、男女各2講座でそれぞれ当初5時間を外部指導者、残り3時間を本校指導者が授業を行うこととした。

(2) 期待される成果について

本校教員の剣道に対する理解が深まることによる指導力の向上と、剣道専門家から生徒が直接指導を受けることによって、より深く武道の魅力に触れ、剣道に対する興味・関心を高めることが考えられる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 授業の実施に向けて

- ① 外部指導者による授業を一定期間に集中して実施できるよう、教務主任に依頼し、授業が連続するような特別時間割を設定した。
- ② 外部指導者による授業の日程と学習内容をまとめた授業実施計画を作成し、剣道の指導経験のない本校指導者が見通しを持って授業に臨めるようにするとともに、外部指導者に主体的に質問等を行い指導が受けられるよう留意した。

(2) 外部指導者との連携

- ① 当初、授業担当者が外部指導者の主催する道場を訪問し、生徒の実態（学年、人数、武道の履修状況、剣道部員数など）や授業予定、単元の目標などを直接外部指導者に伝え、授業内容・方法等について協議した。
- ② 毎時間の授業前に、外部指導者と授業担当者による打ち合わせの時間を設定し、学習内容の確認や役割分担等について確認を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 安全かつ十分な活動空間を確保するため、剣道場ではなく体育館で実施した。
- 2 生徒の実態に即した学習活動を行うため、基本動作や対人的技能を習得するための「形」について、外部指導者より重点的に指導を受けるようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 授業協力者として外部指導者が行う指導を直接体験できることは、剣道指導経験のない教員にとっては自己の指導力を向上させる絶好の機会である。今後、基本動作から対人的技能、さらにそれらを用いて自由練習や簡単な試合へと発展させていく指導法を身に付ける必要がある。
- 2 剣道に造詣の深い外部指導者の指導を受け、生徒は剣道の伝統的な考え方や行動の仕方を身に付けるとともに、剣道に対する興味・関心を高めることができた。

○ 研究内容

【外部指導者による指導①】

剣道指導経験のない指導者への直接指導



【外部指導者による指導②】

外部指導者による全体指導の様子（女子）



【外部指導者による指導③】

外部指導者による個別指導の様子（男子）



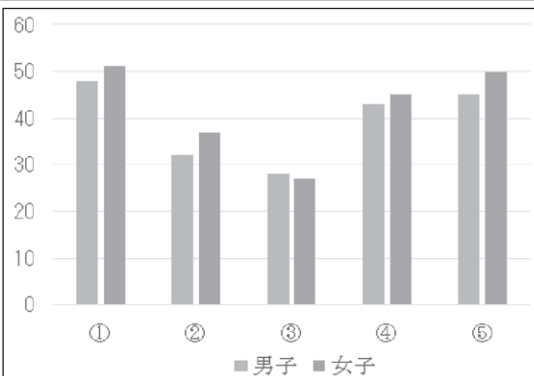
【外部指導者による指導④】

外部指導者による個別指導の様子（女子）



【授業後のアンケート結果】調査対象：2年生男子58名、女子65名

外部指導者による授業終了後の調査結果



外部指導者による剣道の授業終了後に、授業を受けた2年生を対象にアンケート調査を実施した（以下アンケート項目・複数回答可）。

- ① 武道（剣道）独特の雰囲気を味わうことができた。
- ② 専門的な指導に触れ、剣道に興味をもつことができた。
- ③ 剣道の種目の特性について考えることができた。
- ④ 剣道の基本的な技能を身に付けることができた。
- ⑤ 伝統的な剣道の礼法や作法などを学ぶことができた。

【今後の武道授業の方針】

本年度の外部指導者派遣を終了しての検討事項

- 1 本年度の剣道外部指導者派遣を受け、剣道の指導歴のない教員の指導に対する不安を取り除き、指導力を向上させることができた。そこで、来年度も本年度同様に外部指導者派遣が受けられると仮定すると、1年生で実施することを検討したい。
- 2 授業後のアンケート調査から、剣道に対する興味・関心の向上、基本的な技能や礼法の習得が図られたことが分かった。今後、さらに剣道の魅力に迫ることのできる授業展開を検討していきたい。

外部指導者と連携して、剣道の楽しさを味わわせ、効果的に基本技能を習得させる授業の実践例

学校名 松山市立旭中学校（愛媛県）1～3年
全校生徒数 169名（男子85名 女子84名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に関する問合せ先）
電話番号 089(977)4362
学校メールアドレス ash-jof@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者と連携して指導にあたることを通して、生徒に剣道の礼法、基本動作等を確実に身に付けさせることができる効果的な指導法の研究
- (2) 苦手意識を持つ生徒が意欲的に取り組むための指導法の工夫

2 実践研究の概要

- (1) 外部指導者との事前事後の打ち合わせ、並びに効果を高める指導計画の工夫
- (2) 外部指導者との連携による剣道特有の礼法、基本的な所作等の徹底指導
- (3) 外部指導者との連携による剣道初心者への効果的な指導の在り方

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 外部指導者の事前事後の打ち合わせ並びに効果を高める指導計画の工夫

授業形態は男女別で男子19時間、女子19時間の38時間で実施した。本校に剣道の部活動がなく、1年生は初心者、2・3年生は昨年に引き続きの指導であることを配慮して指導計画を立てた。基本動作の定着を図るため、防具の着用については、前半は、胴と垂を付けた動きやすい状態で行った。素振りや足さばきなどの基本練習は毎時間確保した。単元後半の時間に、ペアやグループでの学習を取り入れることにより、関心・意欲を高め、剣道の楽しさを味わわせるよう工夫した。

2 外部指導者との連携による剣道特有の礼法、基本的な所作等の徹底指導

外部指導者と体育教員が、場面によって役割を入れ替わるなど、補足し合いながら、基本技能を習得するための授業を展開した。体育教員は準備、準備運動、補強トレーニング、後片付け、個別支援の必要な生徒への支援を行い、外部指導者は、技術指導を中心に行った。特に、外部指導者が技の師範や練習方法、ポイント等の具体例を指導した。

3 外部指導者との連携による剣道初心者への効果的な指導の在り方

今回、依頼した外部指導者は、中学生の授業を昨年度から引き続き指導されている方で、体育教員が本校1年目ということもあり、生徒の実態を把握するために、毎回、事前事後に打ち合わせを行った。また、道場で小学生や大学生の指導経験がある方であったので、初心者にも分かりやすい基本動作の行い方や練習方法について、優しく丁寧な指導をしていただくことができた。そのきめ細かな配慮やアイデアは、体育教員にとっても勉強になることばかりであった。また、授業の指導計画ばかりでなく、各授業の反省や次時の改善点等毎回、打合せを行うことができ、教師自身が安心感を持って、授業に取り組むことができた。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 授業は、柔剣道場で、男女別で実施した。単元始めは、剣道の歴史や基本的な動き等の指導を徹底するようにした。

2 防具の管理は、外部指導者の方のアドバイスのもと、安全点検等を徹底することができた。

○成果の意義と今後の課題

1 専門家ならではの指導や高い技能の師範ができたため、生徒は剣道の魅力に間近で触れることができ、意欲的に活動し、基本技能の習得につながった。

2 体育教員と外部指導者の役割分担をしたため、体育教員は普段に比べ、生徒一人一人に目を向けることができ、課題に応じた個別指導ができた。

3 体育教員も自らが指導するための知識や指導方法を身に付けることができ、専門性を高める上でも大変有意義であった。

4 各学年7時間程の単元構成は、防具着用指導の時間を考えると少なく、3年間を見通した継続的な指導を実践していく必要がある。2・3年生は、早い段階で防具を着けるとよかった。

5 剣道は素足で行うため、インフルエンザ等が流行する寒い時期に行うよりは、もう少し暖かくなってから行えるよう年間指導計画を見直す必要もある。

○研究内容

【外部指導者による指導】

授業の始めと終わりに行う正しい座礼の方法や大切さを学んだ。



【外部指導者による指導】

最終的には、全員が防具をつけての練習を行った。



【授業の様子 ①】

防具の付け方を学んだ。



【授業の様子 ②】

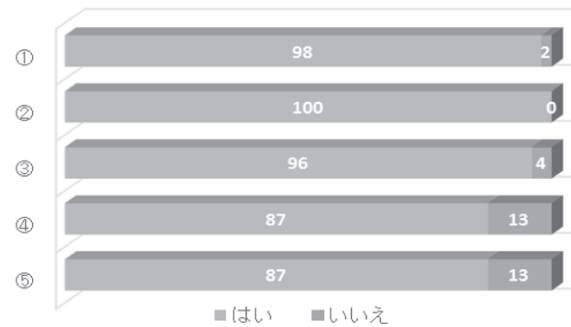
二人組で稽古を行い、山内先生にも稽古をしていただいた。



【剣道についてのアンケート調査】 1年生男女 45名

「専門家に剣道の指導を受けてどう感じたか」

- ① 剣道に興味や親しみを持たたか
- ② 専門家の先生の指導はよかったか
- ③ 礼儀を重んじる心が身に付いたか
- ④ 基本動作が身に付いたと思うか
- ⑤ 来年も剣道を学んでみたいと思うか



【実践校としての成果と課題】

客観的な成果の分析や生徒の感想から

剣道の専門家でなければできない、きめ細かな指導ができた。最初は、興味をもてなかったり、消極的だったりした生徒が「竹刀がうまく振れた」「楽しい」と言えるようになったことは大変うれしいことである。毎時間、一斉の基本練習を取り入れたことで、素振りなどの基本技能が身に付いたと感じた生徒が多かった。また、普段の教師とは違う専門の先生ということで、新鮮さや緊張感も生まれ、武道の精神を学ぼうという真剣な態度で授業を受けることができていた。授業の始めと終わりには座礼を行うことで、改めて日本古来の伝統や歴史を感じる生徒も多く、礼儀や基本動作を身に付ける上で大いに役立ったと考える。

【生徒の感想から】

- ・ 日本武道に共通する心構えを教えていただいたので、普段の生活にも取り入れていきたい。
- ・ 防具をつけて剣道を行うことがとても興味深く、楽しかった。
- ・ 外部指導の先生が、剣道の専門家であったので、丁寧に指導をしてもらい分かりやすかった。
- ・ 前から剣道をやってみたいと思っていたので、授業を受けたことで興味が増した。

地域の外部指導者と保健体育担当教員との連携による効果的な指導の在り方

学校名 松山市立北条南中学校（愛媛県）1、2年
全校生徒数 389名（男子197名 女子192名）
種目等 武道（なぎなた）
（本事例に係る問い合わせ先）
電話番号 089(994)0230
学校メールアドレス hojs-jof@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者との連携によるなぎなたの効果的な指導の在り方を探る。
- (2) 安全に留意した指導の在り方を探る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- 高い専門性をもった地域人材の活用によるなぎなた指導を充実させる。
- 生徒の実態に応じた指導計画と学習形態を工夫する。

(2) 期待される成果（仮説）について

本物の技に触れることで生徒の意欲が高まり、1年生は基礎技能や演技競技の仕方を習得することができる。また、2年生は、防具を付けての攻防や試合競技の仕方を習得することができる。また、学習を通して武道の考え方や礼儀作法・美しい姿勢などについての理解が深まるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 1年生は、なぎなたを使用した体づくり運動を取り入れた。そのことで、なぎなたの扱い方をスムーズに習得することができた。2年生は、1年生で身に付けた技能を生かして、試合も含めたさらにレベルアップした授業を進めることができた。
- (2) 外部指導者との打ち合わせによって、活動時間中の指導内容や身に付けさせたい技能を明確にした。
 - ① 専門的な内容については外部指導者が、きめ細かな指導を行った。
 - ② 他の外部指導者と保健体育担当教員が、生徒の技能の程度に応じて個別に適切な指導や助言を行った。

○児童生徒の安全を確保するために配慮（工夫）したこと

- 1 授業者が健康観察や準備運動を行い、その日の生徒の健康状態の把握をした。
- 2 1講座40名程度で体育館全面を使用して行い、十分なスペースを確保することができた。
- 3 道具の一時保管場所を設置し、安全に管理することができるようにした。
- 4 道具の安全な取り扱いの指導を行った。周囲の安全を確認しながら、なぎなたを取り扱う指導を徹底した。
- 5 生徒の技能レベルに合わせた段階的な指導を行った。導入として体づくり運動を取り入れ、心と体をほぐした。その後、構え方やなぎなたの振り方を十分に理解させてから、ペア練習などを行った。また、2年生は防具を扱うため、正確な着脱の仕方を繰り返し練習させた。すね当てや面が外れないように、紐の結び方を徹底した。練習や試合中に外れた場合には、中断して結ばせた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 二人の外部指導者と連携して、大変充実した授業を展開することができた。また、教員も礼法や構え、体さばきなどの基礎技能、試合の仕方を身に付けることができ、以前より指導に自信をもつことができた。今後さらに研修を積み、教員の指導力を伸ばす必要がある。
- 2 正しい道具の扱い方や技能レベルに合った学習方法を身に付けることで、安全に学習を進めることができた。今後も、道具のメンテナンスをきちんと行い、安全な指導に留意していきたい。